

私と丹沢の関わり — ゴミ問題から夏休み親子自然探検隊 —

有川 百合子*

Yuriko ARIKAWA*

私の所属する「みろく山の会」は 1983 年の創立当初から多様な登山活動の実施とともに、そこから出てくるゴミ問題や登山道の荒廃などに歯止めをかけるべく、自然環境の保全に力を注いできました。特にホームグラウンドである丹沢では、清掃登山、植樹、植樹地の草刈りや各種の調査などを毎年行い、一定の成果を上げてきました。

また、2004～2005 年度にかけて実施された丹沢大山総合調査には私も参加させていただき、広報県民参加部会や地域再生調査チームなどでいろいろな体験をさせていただきました。調査の現場では各専門分野の経験豊富な方々から多くのご教示をいただき、非常に勉強になりました。

丹沢大山を愛する人間の一人として総合調査の自然環境の保全活動に参加したことで私の丹沢にかけける夢と希望が大きく前進しました。私にとって忘れられないいくつかの活動についてご紹介したいと思います。

ビッグプロジェクト・山小屋跡に廃棄された大量ゴミの撤去・登山道の整備など

登山者のマナーの向上により、登山道に多く見られたゴミも 1998 年頃から少なくなってきました。しかし、山小屋周辺、特に以前山小屋があった場所には長年にわたり大量の廃棄ゴミが残置されていました。これらの廃棄されたゴミは丹沢の自然を傷つけ痛々しい状況でした。なかには青々と茂ったスズタケの中に捨てられ、はじめ見えなかったゴミが、スズタケや林床植物が枯れた結果目立つようになってきた場所もありました。

この大量のゴミの撤去作業には「みろく山の会」でも精力的に取り組んできましたが、一山岳会の力では一か所のゴミの撤去に 10 年はかかると思われました。しかし、自然環境保全センターの方のアドバイスにより助成金を受け、自然環境保全センターとの協働でヘリコプターによる搬出を行い、撤去の工期を半分にすることが出来ました。神奈川県勤労者山岳連盟など他の山岳会のご尽力とともに、民間と県との協働によるゴミ撤去プロジェクトが成功裡に終わった例と思います。

ちなみに「みろく山の会」が丹沢から撤去したゴミの量は 1983 年から 2002 年までの 20 年間で 16 トンという驚異的な数字にのぼりました。



写真1 残置された大量の廃棄ゴミ



写真2 撤去したゴミの搬出作業

* NPO法人みろく山の会 (〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼 1-11-202)

その他、「みろく山の会」では、試験的に登山道の補修も実施してみました。場所は勿論いつも利用させていただく大倉尾根線。土嚢袋の中に担ぎあげた砂利を入れ、ぬかるみのところに敷くという初歩的なものです。「ビニールの土嚢袋は月日がたってもバラバラになって残る。麻は値段は高いが自然にかえるから」という適切なアドバイスを自然環境保全センターからいただき、砂利と麻袋を提供していただきました。



写真3 登山道補修の様子



写真4 補修後の登山道

丹沢のオーバーユース問題に関しては、ゴミ、登山道、そしてし尿処理の問題も欠かせないのではないかと考え、し尿の持ち帰りを試験的に実践してみました。トイレ問題に詳しい「みろく山の会」会員の指導で、トイレのない避難小屋へ泊り、山で用を足したものをすべて持ち帰るという「し尿持ち帰り山行」を行いました。普通は日を過ごすごとに軽くなるはずのザックがだんだん重くなります。4回実施してみて、「し尿の持ち帰りは中高年には勧められない」という結論に達し、行政にトイレの充実を訴えていくことになりました。その後、丹沢にバイオトイレが次々と建てられ、現在は9か所以上の山岳公衆トイレが稼働しています。登山者もきれいに利用するとともにペーパーの持ち帰りを励行しています。

丹沢大山ボランティアネットワーク (略称 丹沢ボラネット)の設立

7年前の2002年3月、自然環境保全センターの2階に丹沢大山地域で活動している22団体が集まり、個別に実施している自然保護の活動をお互いに協力

して効率よく実行するために他の団体にも呼びかけて、丹沢大山地域で活動している自然保護団体のネットワーク化を図ろうということになりました。「みろく山の会」は「清掃登山や植樹、水質調査など丹沢で幅広く活動している」という理由から幹事に推薦され、「丹沢ボラネット」設立の呼びかけ人になりました。組織化については初めての経験で何も分からなかったのですが、中村道也さん(NPO法人丹沢自然保護協会)や自然環境保全センター担当者の心強いサポートがあり、その年の8月に設立総会を開催する運びとなりました。

その後「丹沢ボラネット」の活動がはじまり、丹沢大山総合調査が開始されると、広報県民参加部会や地域再生チームの構成メンバーとして、登山者の「意識調査」や「登山道利用実態(PT)調査」などの事業に参画しました。

この「丹沢ボラネット」の組織化により、丹沢大山を巡る多様な自然保護活動について相互理解と交流が図られ、丹沢地域の保全に対して共通の認識を持ち、統一した環境・自然保護への取り組みができるようになりました。また、インターネットを活用して各組織が結ばれ、情報の共有化も実現しています。

今後も官民の協働によりこの組織を生かして斬新な施策が実施されていくことでしょう。

丹沢の素晴らしさを次世代へ 夏休み親子自然探検隊

丹沢大山総合調査の公募型事業では「みろく山の会」がゴミの撤去を、「丹沢ボラネット」が丹沢大山流域の水質調査を実施しました。申請書類を作成しながら水質調査だけでは物足りないと思い、次世代を担う子供たちに水の大切さとその水を育んでいる丹沢の大切さを知ってもらおうと、小学生とその保護者を対象に「夏休み親子自然探検隊」を企画しました。この探検隊は総合調査が終わっても水質調査や地域再生チームで行った登山道利用実態(PT)調査とともに、自然保護の活動を次世代につなぐものとして現在も継続しています。

自然の中を歩くだけでなく、化石を発見するなど、普段体験できないワクワクする企画が盛りだく

さんで、参加した親子に好評を博しています。子供たちの楽しそうな声が伝わるでしょうか？その内容を誌上でご紹介します。

夏休みに入った日曜日、新松田駅の改札口から出てきた小学生と保護者。スタッフにこやかに迎えられ、受付を済ませ貸切バスへ乗車。全員が揃うと、山北駅前のふるさと交流館へ移動。そこでスタッフや講師の紹介、参加者の自己紹介の後、今日のスケジュールや自然の中へ入る注意事項の説明を受け、化石の第一人者門田真人先生（神奈川県生命の星・地球博物館外来研究員）のミニ講座をお聞きして、早く化石を見た～いという気持ちになった後、いよいよ楽しみにしていた皆瀬川へ出発。

「ここは足柄層ですよ」と門田先生からの説明があり、粘土質の土をさわり、そのそばの斜面に細い竹の棒が差し込まれた所で、スタッフが用意したカップに水を満たし喉を潤す。「おいしい、おいしい」「山からこんなに水が出てくるんだ！不思議だね」と山の恵みに感謝する。

葛の葉を利用しての葛鉄砲や珍しい花や樹の説明、なかには日本三大毒草のドクウツギも。おたまじゃくしを見つけ、「これ、カエルの赤ちゃん？」「これは普通のカエルではなく、河鹿ガエルになるんだよ」

スタッフお目当ての葉っぱがあって、川の流れが緩やかなところへくると皆で笹舟づくり。自分たちが作った舟を川へ流す。すぐ沈没するものや遠くまで流れていく笹舟。子供も大人も童心に帰り、上手に作れるようになった笹舟に満足。「自然の中って楽しいね」とご満悦である。スタッフが早朝から張っておいたロープを頼りに急坂を登り、一度川から離れ、日陰の河原でお弁当。その間、スタッフは張り出た枝にブランコを作る。それを見ていた子供たち、食事もそこそこにさっそくブランコに乗り、どの子も楽しそう。たちまち2台のブランコに順番待ちの列ができる。その後方では、大小のビニール袋を使い、水との力比べゲームに興じるグループ。これもブランコ同様盛り上がる。水にこんなに力があったんだと感心する子供たち。

いよいよ午後からは青サンゴ化石群へゴー。また

また面白い山道のようなところを川へ向かって降りると、エメラルドグリーンの水を湛えるこの皆瀬川で一番きれいな場所に到着。子供たちも「きれい」と川の中へ。すると上方から何か緑色の物体が流れてくる。「あれ、なんだろう！」「あれっ、もしかしてスイカ？」「スイカだ！」喜ぶ子供たち。

「桃じゃないけど、皆で切って食べましょう！」「ゴミ用のビニール袋が用意してあります。種も捨ててはいけません」「は～い」みんなスタッフの言うことを100%よく守ってくれる。スイカを食べ終え、いよいよ今日の目玉、青サンゴ化石を探しに！

ここで皆さんに用意してもらった歯ブラシなどブラシ類が役に立つ。子供たちに石を磨いてもらい、自分で化石を発見してもらおうというもの。いつもは気にもかけない石の中にサンゴ化石が？

子供たちは夢中で石を磨く。化石を発見した時のうれしそうな顔・かお・顔。

最後に家族へのお土産として、おいしい丹沢の水をペットボトルに汲み帰途に就く。

参加者のアンケートの感想をいくつかご紹介しましょう。

（30代のお母さん）

普通の川遊びでは体験できないことを教えていただいた。私たちがこれから丹沢を守っていききたいと思いました。

（40代のお母さん）

神奈川県で生まれ育ちましたが、改めて丹沢の価値を考えました。世界に誇れる丹沢のすばらしさを、ぜひみんなで守っていききたいと思います。

（10歳以下の女の子）

今回、自然の大切さを知ったり、いろいろな自然を知ったので、また来たいと思います。私たちも自然を守るべきだと思います。

（10歳の女の子）

川遊びや化石を見れたからよかった。このイベントは楽しいからぜひ続けてほしいです。

子供たちは遊びの中から私たちが伝えたかったことをちゃんと学びとっていました。教えることはないんだ。一緒に楽しく遊ぼうね、また丹沢で。

自然環境は地球規模で悪化の一途を辿っています。丹沢も例外ではありません。

丹沢の緑豊かな自然環境を次世代に残していくことや、その次世代の担い手たちを啓蒙していくことも大切な私たちの役目です。

親子探検隊のような形で水源の森林の大切さを

子供たちに実感してもらえたことは私にとって喜びでもあり、将来に対する明るい希望につながるものでした。

これからも次世代を担う子供たちへ、森と水の豊かな丹沢から自然環境の大切さを発信していきたいと思っています。



写真5 ロープを頼りに急坂を登る参加者



写真6 ブランコを楽しむ子供たち



写真7 青サンゴ化石探しに夢中になる参加者